

高尾山報

令和5年5月号



子供たちの健やかな成長を願う高尾山春季大祭

於・有喜苑仏舎利奉安塔



宝物館の完成を祝す竣工式

總本山智積院宝物館竣工式

四月三日(月)

真言宗智山派総本山智積院で、真言宗の開祖である弘法大師誕生一二五〇年を記念して、新たに展示収蔵庫「宝物館」が完成し、四月三日に総本山智積院化主第七十二世大僧正布施淨慧猊下御導師のもと竣工式が執り行われました。

竣工式には、成田山新勝寺御貫首岸田照泰大僧正、川崎大師平間寺御貫首藤田隆乗大僧正御名代執事長出井宏樹僧正と共に当山貫首も参列致しました。

宝物館は翌日の四月四日に開館し、弘法大師の肖像画や直筆と伝わる般若心経などゆかりの品や、長谷川等伯一門による国宝の障壁画などが展示されております。

塵が静まるとお大師さまのお姿が現れました。御髪は一尺(約三〇センチ)ほど伸びていらっしゃつたので、觀賢僧正自らが剃刀(かみそり)で御髪をお剃りし、朽ちて散らばつていな水晶のお念珠の珠を拾い集めて御手におかけし、衣も清淨な物をお着せしました。そして僧正は洞窟を出る時、今はじめてお別れするかのように泣き悲しまれたのでした。その後は誰も洞窟を開く人はいませんでしたが、

（八五四）（九一五）は感（げき）激（なみなみ）の涙（なみだ）を留（とど）めたまま洞穴（ほらあな）で修行（しゆぎょう）を続けていらつしやるお姿（すがた）を前にして、観賢僧（くわんそう）正（まさ）とも呼ば（よ）れました。肉体（にくたい）も心（こころ）も、留（とど）められたまま洞穴（ほらあな）で修行（しゆぎょう）を続けていらつしやるお姿（すがた）を前にして、観賢僧（くわんそう）正（まさ）とも呼ば（よ）れました。肉体（にくたい）も心（こころ）も、

なく自分の心中にあるもの。信心をおこして修悟りを行をすれば、忽ちにして到達できる)その後、觀賢僧正は朝廷に働きかけ、延喜二十二年(九一三)十月二十七日に醍醐天皇(八八五)九三〇)より「弘法大師」の謚号(徳をたたえて贈る称号)を賜りました。

ここに、四国八十八箇所をはじめとする、今にながる大師信仰の礎が築かれたのです。

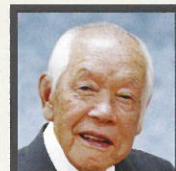


御冥福をお祈りいたします

をお祈りいたします

人がお参りする時は堂の戸が自然に少し開いて、山に鳴るような音がした。鉢を打つたりする音がした。鳥の声さえまれな山中ですが、全く恐ろしくありません。それは、坂の下に丹生・高野の二柱の明神が鎮座なされているからでしょう。靈妙な地として今もお参りが絶えません。(『今昔物語集』)

御冥福をお祈りいたします



去る四月十四日、四期十六年に渡り八王子市長を務められた、波多野重雄氏が九十七歳の生涯を閉じられました。

八王子市の発展に尽力された波多野様は高尾山とご縁が深く、市長を引退された後には、高尾山健康登山を始められ、百回満行（二千百回登山）を達成されると共に、「高尾山健康登山の会」で会長を務められました。また高尾山報において、『折り折りの記』を連載されておりました。ここに衷心より波多野重雄氏の御冥福をお祈りいたします。

若葉が茂る
あれに見えるは
茶摘ぢやないか
茜櫻に管の笠
(唱歌「茶摘」)
こちらは今から百年以上前、明治四十五年(一九二二)刊行の「尋常小学唱歌」に掲載された日本の唱歌です。懐かしく口ずさまれる方も多ないのではないでしょうか。「せつせつせーのよいよいよい」というお決まりのかけ声とともに手遊びをしたのも楽しい思い出です。
「八十昼夜」は暦の雑節の一つで、立春から数えて八十八日目に当たります(今年は五月一日)。二十四節気の「立夏」(五六月六日)を前にした、まさに「夏も近づく」時節

でしよう。田畑の作物の種まきに適した時期でもあり、茶どころでは茶摘みの最盛期を迎えます。この歌は、京都府綴喜郡宇治田原村（現在の宇治田原町）に伝わる茶摘み歌から取られたとする説がありますが、西洋色に染めた茶葉に、昔話「笠（かさ）」に登場するような笠（かさ）をかぶつての摘み取りが、かつてはそこかしこで行われていたのでしよう。

ちなみに、この地方では、八十八夜に苗代に種を蒔き、その隣に「いり米」（炒つた米と豆）などをお供えする風習があつたそうです（井上頼寿『改訂 京都民俗志』）。夜は、農作業にとつて「八十八」は漢字の「米」にも通じますが、八十八のうさぎよじょうに

「走り梅雨」という言
い回しがあるように、五
月も下旬になれば、雨模
様の日も増えてきます。
草木も一雨ごとに新緑か
ら深緑へと移り変わり、
潤いが似合う花々が次々
に咲き始めます。
この山々の緑が一層深
くなり、湿り気を含んだ
空気の重たさを感じる折
節。京都の真言宗智山
派総本山智積院では、
毎年六月十五日に「青葉
まつり」という行事が執
り行われます。これは、
真言宗の宗祖である弘法
大師空海(七七四~八三
五)が生まれになつた
日(宝亀五年(七七四
六月十五日)と、ちよこ
う)がお生まれになつた
祖である興教大師覚鑊
(一〇九五~一一四三)が
お生まれになつた日(嘉
保二年(一一〇九五)六月
十七日)に合わせて開催さ

されるもので、両師の恩を慕いつつ、皆でご生誕をお祝いします。とりわけ今年はお大師さまがご誕生なされて一二五〇年の記念年に当たります。例年にも増して盛大な「青葉まつり」に、皆さまも足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

さて今月号も、お大師さまの伝記を読み進めましょう。前回は、高野山に金剛峯寺を開き、承和二年（八三五）三月二十一日に入定なされたところまでを読みました。

普通「入定」という言葉は「高僧の死」を意味します

が、お大師さまにとつての「入定」とはどのようなものだつたのか。その後の様子について、『今昔物語集』には次のように語り継がれています。

入定なされてからしばらくして、般若寺の觀賢僧正といふ方が高野山に参詣し、お大師さまが入定なされた洞窟を開きました。すると、中は霧が立ち込め暗夜のように何も見えません。霧が薄くなつてから目をこらすと、お大師さまの朽ちた衣が、風が吹き込んだために塵となり、それが霧のように漂つていたので



収穫期を迎える茶畠



八王子消防記念会による勇壮な梯子乗り



大本堂にて熱祷する佐藤貫首



八王子市の姉妹都市の苦小牧市より訪れた「風の会」の皆様



地元の浅川中学校吹奏楽部による演奏



氷川神社獅子舞保存会による厄祓いの奉納獅子舞



大本堂内で御詠歌を奉詠



絹太鼓保存会による太鼓の音が響く

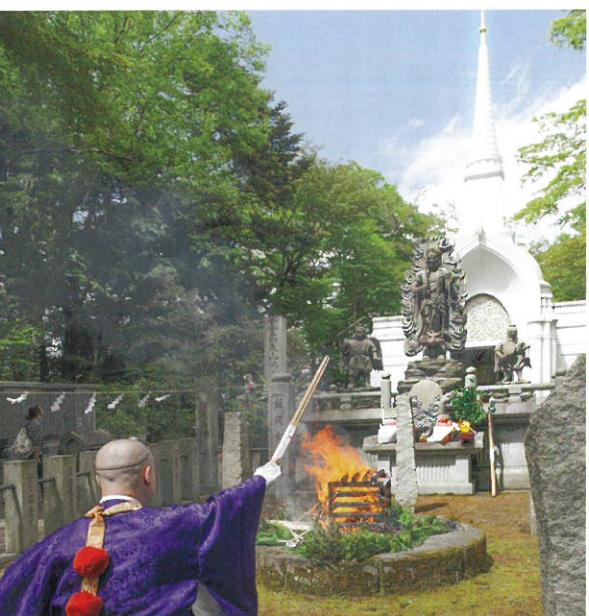
新緑の高尾山で稚児たちの健やかなる成長を願う

春季大祭奉修

四月十六日(日)



稚児装束の可愛らしいお稚児さん達



有喜苑における柴燈大護摩供厳修



山麓を歩く侍装束の高尾山慶賀会の皆様

四月十六日、子供たちの健やかな成長を願う高尾山春季大祭が奉修されました。最初に佐藤貫首をはじめ山内の僧侶、山伏が高尾山慶賀会の皆様と浅川中学校吹奏楽部と共に山麓の表参道をケーブルカー清滝駅まで練り歩きました。

その後、十一丁目茶屋からは華やかな衣装に着飾つたお稚児さんや、八王子消防記念会、高尾山御詠歌講、氷川神社獅子舞保存会、苦小牧市より訪れた「風の会」、ボーカリスト及びガールズカウトの皆様と合流して、絵巻物のような稚児パレードとなり、境内では絹太鼓保存会による奉納太鼓と八王子消防記念会による梯子乗りの出迎えを受け、大本堂で御護摩修行を厳修致しました。

觀音菩薩の宗教

(65)

国際教養大学特任教授 金岡秀郎

如意輪觀音（その3）

前回は弘法大師が月輪觀や阿字觀により如意寶珠を觀想できるとし
た『秘藏記』の所説にかんがみ、坐禅や禪定を「瞑想」とすることへの過ちについて述べた。

今回はふたたび如意輪および如意輪觀音に題を戻して考察したい。すでに見たように「觀音菩薩の宗教(63)」、弘法大師において如意輪は如來の分身であった。このことは、真言密教、真言宗での如意輪觀音菩薩の重要性を示している。今号ではかかる如意輪觀音菩薩の來源を考察し、この尊格の日本における受容の歴史を辿ることにする。

聖觀音や十一面觀音などに比し、如意輪觀音の

輪觀音の可能性のある作品として、ベンガル地方を支配したパラ王朝時代(8~12世紀)のもの三例を挙げて

いる『仏像学入門』春秋社、二〇〇四年、一六〇〇一六三頁)。そのうちの一つは、



ナーランダー出土の如意輪觀音とされる
傳仏。Pal前掲論文掲載の写真より。
<https://www.asianart.com/articles/cintamani.pdf>

起源は未解明な点が多い。インドやチベット各地の仏教遺跡を精査した密教学者の頬富本宏は、一九九〇年の時点で次のように述べている。「如意輪觀音は、その起源、原名、遺例など、すべてがまだ神秘のヴェールに包まれている。いわゆる思惟形をとる、われわれに親しい姿は、敦煌などに見えることができるが、インドでも同様の姿であつたという保証はない。薬師如来とされる金銅仏が、北西インドで発見されている現在、まだ手がかりのないのはこの如意輪觀音くらいである」(『密教仏の研究』法藏館、五一頁)。

一方、仏教美術史家の宮治昭は、インドの如意

五一大寺は奈良時代に興隆し、その財産目録である『西大寺資材帳』は『如意輪陀羅尼經』を載せている。これらのことから奈良時代には、天皇の看病など、各種仏事で如意輪菩薩の功德を説く陀羅尼が誦されていたと推定される。陀羅尼(サンスクリット語でダーラニ)とは、仏菩薩を讃える呪文・呪句で、原則としてサンスクリット語のまで唱えられる。現代でも真言宗をはじめとする各寺院の法要などで唱えられる『光明真言』や『阿弥陀如来根本陀羅尼』、「般若心經」末尾の「羯諦偈」などはみな陀羅尼に分類される。陀羅尼や真言は多くの人にとつてその語釈は不可能であるが、仏の加護を頂く有難く不可思議な音の連続として受容されてきた。陀羅尼を翻訳せず、インドの原音により唱えることは、漢語仏教圏のみならず、チベットやモンゴルでも同

土のテラコッタの印章に浮彫で表されたもので、カルカッタ大学アシュトシュ博物館(the Asutosh Museum)の所蔵である。ここにいう「テラコッタの印章」は傳仏のことでの印風を型につめて成形し、粘土を型に左足を投げ出し、右膝を曲げる形で坐し、右第一手を与願印風に下に向け、第二手には念珠を持ち、第三手を額に当てて思惟相をとる。左は第一手を垂下して地につけ、同時に蓮華とになる。

しかしながら「如意輪觀音」の名は、この菩薩が如意宝珠を持ち、それを転がすことにより衆生の願いを叶えることを示す。日本において如意宝珠は地藏菩薩や普賢菩薩、あるいは吉祥天女などさらにには神道の神々などが所持したり、寺院の屋根に設えられることもあるが、最も典型的なのは菩薩名に示された如意輪觀音である。京都の宝物院の如意輪觀音像のようにもあるが、この像は他の菩薩である可能性も指摘されおり、如意輪觀音といえれば、如意宝珠を持つ菩薩を特色とする尊格である。その点を捉え、如意輪觀音は「他の觀音菩薩と異なる特徴として、

は、「こうしたプレーク(plaque=テラコッタの印章、傳仏。金岡注)は、明らかに学者や巡礼者によって容易に辺境を越えて運ばれていき、(各地の)芸術家たちの手本となつた」と述べ、遠く離れたナーランダー、燐煌、日本において、図像学上の構成などの表現が顕著に類似していることに驚嘆している。

仏教美術の研究者である田中公明は、ガンドーラ出土の阿弥陀三尊像と推定される二尊像の左脇侍が半跏思惟形で左手に蓮華を持つていることを指摘し、それを觀音像と推定した。それに基づき、この半跏思惟菩薩ではなく、後に如意輪觀音に發展する思惟形の観音像の原型と考えられる」とした(『仏教図像学』春秋社、一二〇一五年、八一頁)。また、他の変化觀音は四臂觀音からし、「如意輪觀音は、ガ

ンダーラに現れた半跏思惟形の發展形態である」と述べている(同書、一〇二頁)。これによれば、如意輪觀音の起源は、「輪」すなわち如意宝珠よりも思惟形が先立つことになる。

しかししながら「如意輪觀音」の名は、この菩薩が如意宝珠を持ち、それを転がすことにより衆生の願いを叶えることを示す。日本において如意宝珠は地藏菩薩や普賢菩薩、あるいは吉祥天女などさらにには神道の神々などが所持したり、寺院の屋根に設えられることもあるが、最も典型的なのは菩薩名に示された如意輪觀音である。京都の宝物院の如意輪觀音像のようにもあるが、この像は他の菩薩である可能性も指

摘されており、如意輪觀音といえれば、如意宝珠を持つ菩薩を特色とする尊格である。その点を捉え、如意輪觀音は「他の觀音菩薩と異なる特徴として、

持物の力を象徴した觀音であり、著しく仏教的・密教的性格を持つている」と解釈している(井上一稔「如意輪觀音像」『馬頭觀音像』『日本の美術312』至文堂、一九九二、一九頁)。ここにいう「持物」はまさに如意宝珠である。しかしすでに指摘したように(拙稿「如意輪觀音の宗教(62)」)、如意輪觀音の原語であるチンターマニに遡れば、宝を意味する「マニ」とともに、思惟を意味する「チンター」がこの二つの尊格を示す特異的な語であることが浮かび上がる。そのことはまた、田中公明氏の考察とも一致する。日本の多くの如意輪觀音像が、輪を持つ物とともに、思惟形を示しているのは語義を正しく解釈した結果といえよう。

日本における如意輪觀音菩薩信仰は、奈良時代に始まる(井上一稔、前掲書、二六頁)。東大寺に対しても西に建てられ

た西大寺は奈良時代に興隆し、その財産目録である『西大寺資材帳』は『如意輪陀羅尼經』を載せている。これらのことから奈良時代には、天皇の看病など、各種仏事で如意輪菩薩の功德を説く意輪菩薩の功德を説く陀羅尼が誦されていたと推定される。陀羅尼(サンスクリット語でダーラニ)とは、仏菩薩を讃える呪文・呪句で、原則としてサンスクリット語のまで唱えられる。現代でも真言宗をはじめとする各寺院の法要などで唱えられる『光明真言』や『阿弥陀如来根本陀羅尼』、「般若心經」末尾の「羯諦偈」などはみな陀羅尼に分類される。陀羅尼や真言は多くの人にとつてその語釈は不可能であるが、仏の加護を頂く有難く不可思議な音の連続として受容されてきた。陀羅尼を翻訳せず、インドの原音により唱えることは、漢語仏教圏のみならず、チベットやモンゴルでも同

持物の力を象徴した觀音であり、著しく仏教的・密教的性格を持つている」と解釈している(井上一稔「如意輪觀音像」『馬頭觀音像』『日本の美術312』至文堂、一九九二、一九頁)。ここにいう「持物」はまさに如意宝珠である。しかしすでに指摘したように(拙稿「如意輪觀音の宗教(62)」)、如意輪觀音の原語であるチンターマニに遡れば、宝を意味する「マニ」とともに、思惟を意味する「チンター」がこの二つの尊格を示す特異的な語であることが浮かび上がる。そのことはまた、田中公明氏の考察とも一致する。日本の多くの如意輪觀音像が、輪を持つ物とともに、思惟形を示しているのは語義を正しく解釈した結果といえよう。

日本における如意輪觀音菩薩信仰は、奈良時代に始まる(井上一稔、前掲書、二六頁)。東大寺に対しても西に建てられ

た西大寺は奈良時代に興隆し、その財産目録である『西大寺資材帳』は『如意輪陀羅尼經』を載せている。これらのことから奈良時代には、天皇の看病など、各種仏事で如意輪菩薩の功德を説く意輪菩薩の功德を説く陀羅尼が誦されていたと推定される。陀羅尼(サンスクリット語でダーラニ)とは、仏菩薩を讃える呪文・呪句で、原則としてサンスクリット語のまで唱えられる。現代でも真言宗をはじめとする各寺院の法要などで唱えられる『光明真言』や『阿弥陀如来根本陀羅尼』、「般若心經」末尾の「羯諦偈」などはみな陀羅尼に分類される。陀羅尼や真言は多くの人にとつてその語釈は不可能であるが、仏の加護を頂く有難く不可思議な音の連続として受容されてきた。陀羅尼を翻訳せず、インドの原音により唱えることは、漢語仏教圏のみならず、チベットやモンゴルでも同

持物の力を象徴した觀音であり、著しく仏教的・密教的性格を持つている」と解釈している(井上一稔「如意輪觀音像」『馬頭觀音像』『日本の美術312』至文堂、一九九二、一九頁)。ここにいう「持物」はまさに如意宝珠である。しかしすでに指摘したように(拙稿「如意輪觀音の宗教(62)」)、如意輪觀音の原語であるチンターマニに遡れば、宝を意味する「マニ」とともに、思惟を意味する「チンター」がこの二つの尊格を示す特異的な語であることが浮かび上がる。そのことはまた、田中公明氏の考察とも一致する。日本の多くの如意輪觀音像が、輪を持つ物とともに、思惟形を示しているのは語義を正しく解釈した結果といえよう。

日本における如意輪觀音菩薩信仰は、奈良時代に始まる(井上一稔、前掲書、二六頁)。東大寺に対しても西に建てられ

た西大寺は奈良時代に興隆し、その財産目録である『西大寺資材帳』は『如意輪陀羅尼經』を載せている。これらのことから奈良時代には、天皇の看病など、各種仏事で如意輪菩薩の功德を説く意輪菩薩の功德を説く陀羅尼が誦されていたと推定される。陀羅尼(サンスクリット語でダーラニ)とは、仏菩薩を讃える呪文・呪句で、原則としてサンスクリット語のまで唱えられる。現代でも真言宗をはじめとする各寺院の法要などで唱えられる『光明真言』や『阿弥陀如来根本陀羅尼』、「般若心經」末尾の「羯諦偈」などはみな陀羅尼に分類される。陀羅尼や真言は多くの人にとつてその語釈は不可能であるが、仏の加護を頂く有難く不可思議な音の連続として受容されてきた。陀羅尼を翻訳せず、インドの原音により唱えることは、漢語仏教圏のみならず、チベットやモンゴルでも同

持物の力を象徴した觀音であり、著しく仏教的・密教的性格を持つている」と解釈している(井上一稔「如意輪觀音像」『馬頭觀音像』『日本の美術312』至文堂、一九九二、一九頁)。ここにいう「持物」はまさに如意宝珠である。しかしすでに指摘したように(拙稿「如意輪觀音の宗教(62)」)、如意輪觀音の原語であるチンターマニに遡れば、宝を意味する「マニ」とともに、思惟を意味する「チンター」がこの二つの尊格を示す特異的な語であることが浮かび上がる。そのことはまた、田中公明氏の考察とも一致する。日本の多くの如意輪觀音像が、輪を持つ物とともに、思惟形を示しているのは語義を正しく解釈した結果といえよう。

日本における如意輪觀音菩薩信仰は、奈良時代に始まる(井上一稔、前掲書、二六頁)。東大寺に対しても西に建てられ

た西大寺は奈良時代に興隆し、その財産目録である『西大寺資材帳』は『如意輪陀羅尼經』を載せている。これらのことから奈良時代には、天皇の看病など、各種仏事で如意輪菩薩の功德を説く意輪菩薩の功德を説く陀羅尼が誦されていたと推定される。陀羅尼(サンスクリット語でダーラニ)とは、仏菩薩を讃える呪文・呪句で、原則としてサンスクリット語のまで唱えられる。現代でも真言宗をはじめとする各寺院の法要などで唱えられる『光明真言』や『阿弥陀如来根本陀羅尼』、「般若心經」末尾の「羯諦偈」などはみな陀羅尼に分類される。陀羅尼や真言は多くの人にとつてその語釈は不可能であるが、仏の加護を頂く有難く不可思議な音の連続として受容されてきた。陀羅尼を翻訳せず、インドの原音により唱えることは、漢語仏教圏のみならず、チベットやモンゴルでも同



花御堂の誕生仏に甘茶が灌がれる



大勢のボーイスカウトの皆様が参加されました

お釈迦様生誕の日と伝わっている四月八日には、お釈迦様の誕生を祝する「花まつり」が日本各地で行われております。

高尾山では、有喜苑に昭和六年（一九三二）タイ王国より日本ボーリスカウト連盟が「健児の仏舎利」として拝受した、お釈迦様の真身骨を安置した仏舎利塔があります。その御縁から、毎年四月の第一日曜日に各地より集まつたボーリスカウト会員により花まつりが行われており、本年は一日に行われました。



満蒙の地で帰らぬ人となった先人を供養する

花まつり（釈尊降誕会）

四月二日（日）・八日（土）

高尾山外林講 第五十回 满蒙大陸林業人 物故者慰靈祭厳修

四月十七日（月）

四月十七日、有喜苑仏舎利奉安塔裏側にあります、「満蒙大陸林業人供養塔」において、高尾山外林講主催により、佐藤貫首導師のもと「第五十回満蒙大陸林業人物故者慰靈祭」がしめやかに執り行われました。

高尾山外林講は、第二次世界大戦以前に満洲や蒙古などの、外地で林業に就いていた方のご家族や関係する方が中心となっています。この供養塔は現地で亡くなられた方々の冥福を祈るために、昭和四十九年に建立されました。

高尾山登山者安全祈願祭厳修

四月二十一日（金）

四月二十一日（金）、高尾登山電鉄清滝駅前において、高尾山へ訪れる方々の安全や疫病退散等の諸願成就を願う、「登山者安全祈願祭」が行われました。

安全祈願祭では柴燈大護摩供を厳修し、来山者の安全と共に、新型コロナウイルスによる感染症流行が終息し、安心して高尾山に訪れる日々が戻つてくるよう、参列の関係者一同と共に祈念しました。



登山者の安全を祈る佐藤貫首

星野家三代句碑法楽会

四月十八日（火）



この場所には、明治時代の俳人・高浜虚子の次女である、星野立子様と椿先生、高士先生の親子三代に渡り、俳句が刻まれた句碑を建立されております。

高尾山には、蛇滝と琵琶滝という二つの水行道場があり、毎年四月一日に、一年間の安全を祈願する開瀑式が行われます。

開瀑式厳修

四月一日（土）



蛇滝（左）と琵琶滝（右）で滝行の安全を祈願する

参、二回目を執行。以降、五月にかけて合計一〇名の藩士が従者とともに交代で代参に訪れ、一〇度の八千枚護摩供が執行されるという大がかりな祈祷となつた。

九月二〇日には母子の順調な産後が報され、祈祷料として白銀二五枚を納める。重ねて出生が未だ明らかにされていないことが念押しされているが、無事生育の祈願が何にもまして優先され、紀州家と薬王院はいつしかこののような内密の事情を共有する間柄となつていたのである。

母子生育の祈祷

い旨の書面が浅井庄左衛門から届いている。八千枚護摩供十座結願の後も、重倫の全快まで祈祷の継続が依頼されていた。それに加え、懷妊中の愛妾お八百の方に対する安産祈祷が依頼されていたことが分かつてゐる。

記されている

一二月一八日付の書状
からは、夏以来、半年に
わたり病氣平癒と母子安
全の祈祷が絶え間なく継
続されていたことが分か
る。書状の後半には、こ
の間の祈祷料が箇条書き
で記されている。

祓ご執行そうろう付
これあいつかわさる
白銀十枚

一二月一八日付の書状から、夏以来、半年にわたり病氣平癒と母子安全の祈祷が絶え間なく継続されていたことが分かっている。書状の後半には、この間の祈祷料が箇条書きで記されている。

白銀三十枚
紀伊殿(重倫)所労(病気)早く快然(中略)当七月より絶えずご祈禱ご執行そうろう付、これあいつかわざる

白銀十枚
雅之助殿安全肥立たれ(中略)安産後、絶えずご祈禱ご執行、御札お指し越し(中略)、これあいつかわざる

翌二月二六日付の浅井からの音信には、興味深い点がある。文中には「明日はこの表ご出立成られそうろう由」に続き、「寒中別してご旅行ご大儀存じ奉りそうろう」、「随分寒氣おしのぎ」と記されている。書状の宛所は「薬王院」すなわち秀興であるので、「御山」すなわち高尾山に帰山する嚴冬の道中を気遣つた内容である。

た恒常的な祈禱所となり、具体的的な目的を増

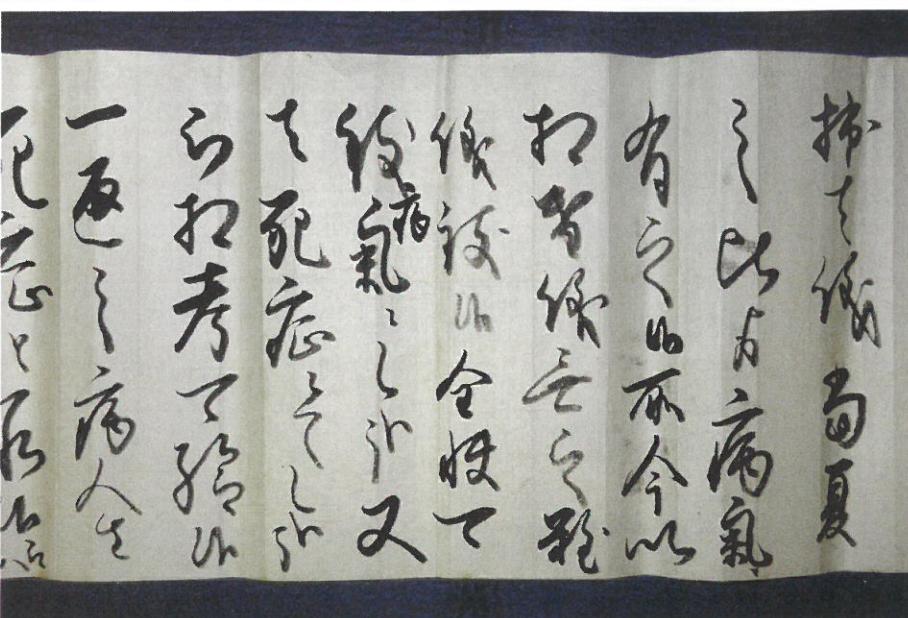
わめて密接な関係を築いていたことが印象付けられる。

この訪問に際して、秀興は八千枚護摩供と星^{ほし}供^{くわ}註2の執行を勧めており、帰山の後、その依頼を受け取っている。その後は日々の祈祷とともに、年末の八千枚護摩供も恒例となり、一時の実績による名目的な祈祷所としてではなく、病気平癒や子息の無事生育という具体的な目的を掲げた恒常的な祈祷所として

十七世秀興4 紙伊中納言からの書状

明治大學博物館
外山
翁

4



和歌山藩主徳川重倫から隠居湛玄に宛てられた直筆の書状

重倫直筆の書状

明和八年（一七七一）の九月、藥王院隱居湛玄（六世秀憲）の許へ一通の書状が届いた。書状の主は紀伊徳川家の当主重倫である。

重倫直筆の書状 すでに述べてきたように、高尾山は先々代宗直の時から紀州家の帰依を受けてきたが、この書状の到来は、薬王院文書に伝世する史料から史実と確定できるトピックスとして、宝暦五年（一七五五）の戸帳・水引^{註1}の寄進以来となる。

対し厚い信頼を置いていたから故であろう。

書状の内容は深刻である。自分(重倫)はこの夏から病気なのだが、これは全快するのか、あるいは死症なのか、考へてもらえないかと尋ねている。そして、死ぬとなつても私は仏法に帰依しているので気にかけるものではない。治るのであればますます養生し、死ぬ三昧さんまいに入るつもりなので、遠慮なく聞かせてほしい、とある。別紙として添えられた書面には、白銀を近日中に届けるが「祈念料になるとも、供養料になるとも、宜しくあい頼み」とまである。冗談ではなく、近いうちに死が訪れることすら重倫は覚

重論病氣平癒の祈祷

重倫病氣平癒の祈禱

■健康登山者投稿作品■

季節の絵手紙「ヒメシャガ」

八王子市 石井雅子 様



ほ

一步一歩煩惱滅除

百八の階段を昇り、悩みや煩い事を取り除きましょう

十六段 道は一つではないよく考える

一つしか道はないけど、その道が絶たれたとき、絶望してしまいます。しかし、見えていなくても、必ず他に道があるはずです。そう思えば、当初の想定とは違う行程になったとしても、別の目的地にたどり着くことができることでしょう。

「有言実行」、自分が言つたことは自分が責任を持つて行う。口に出すのは簡単ですが、実際に行うのは難しいものです。

逆に「有名無実」という表現にありますように、評判の良い人でも、いざ実際の行動に移す時には何もしない、できない人も存在します。

どんな人でも最初の一歩を踏み出すことは躊躇しがちです。しかしそんな時にこそ、自分から頭を取って行動してみましょう。他人も信用してくれてきます。

高尾山季節散歩

暦の言葉 「七十二候」
麦秋至
「むぎのときいたる」
五月三十一日～六月四日頃

この頃には、冬に種を蒔いた麦に穂が実り、麦畠は一面が黄金色になります。初夏を迎える時期ではあります。が、麦にとつての収穫の秋という意味で「麦秋」や「麦の秋」という呼び方があります。

この頃には、冬に種を蒔いた麦に穂が実り、麦畠は一面が黄金色になります。

江戸時代には初ガツオが珍重され、現在の価格で一尾八万円、高い時には二十万円以上で取引されたそうです。

いろは 天狗の落し文

28

く 口にしたこと 実行すれば 困りのみんな 着いてくる

あたたかい日、ミツバチの子育て係のお姉さんがいました。

今日は外に行きますから、勝手なことしないでね。迷子になつたら巣に帰れなくなるからね

妹たちが、巣から外をのぞいて、「こわいわ」と震えていると、「みんな弱虫ね」と、一番小さな妹が勢いよく外に飛び出しました。

ブンブ。ダメよ。勝手なことをしないで

お姉さんが怒ったのに、ブンブは、

「平気、平気。外は気持ちがいいわ」と、高くてかく飛んでいました。

高尾山のふもとには、きれいなお花畠がたくさんあります。

しばらく飛んで行くと、お花畠の中でハチの群れ

が震えていると、「こわいわ」と震えていると、「みんな弱虫ね」と、一番小さな妹が勢いよく外に飛び出しました。

ブンブ。ダメよ。勝手なことをしないで

お姉さんが怒ったのに、ブンブは、「おや。ミツバチのおチビちゃんじやないか」「どうしたんだい?」「おや。ミツバチのおチビちゃんじやないか」「どうしたんだい?」「それとも、私たちに食べられに来たのかい?」「いいました。スズメバチは、いつもお姉さんがいつていた怖いハチです。だから、ブンブは、「ごめんなさい」と、花の中に飛びこみました。それなのに、スズメバチは、「逃がすな」と、どこまでもブンブを追いかけてきます。

ブンブは、花の間を行つた

花の外でスズメバチたちが騒いでいます。

ブンブは、怖くてこわくて花の中で小さくなつて震えています。

どのくらい時間がたつたでしょうか。気が付くと、外で誰かが呼んでいます。

お姉さんです。

「ここよ。花の中よ」

ブンブが、大きな声でお姉さんを呼ぶと、花の隙間から、まぶしい光が差し込んできました。

朝日です。

すると、花びらがゆつ

くり開きました。

「まあ。ブンブ。こんなところにいたの。心配したわよ」

「おはよう」「おはよう」と、集まつてきました。

「ごめんなさい」

ブンブがあやまるど、お姉さんたちが、くすぐり笑いだしました。

「なあに。その顔。顔中、花粉だらけよ」

「早く巣に帰つて顔を洗いなさい」

ブンブは、お姉さんたちと一緒に朝日の中を高尾山の方に飛んでいきました。

(挿し絵・小出 茂)

おはようブンブ

柏市 木村 研

おはなし散歩道

たり来たり。もう、ふらふらです。

「ああ、もうだめ」と思った時、ポツンと雨が落ちてきました。

スズメバチたちも空を見上げました。

その時です。

ブンブは、近くに咲いていたチューリップの花の中に飛びこみました。

チューリップは、びっくり。慌てて花を閉じてしましました。

「やい。出てこい」

花の外でスズメバチたちが騒いでいます。

ブンブは、怖くてこわくて花の中で小さくなつて震えています。

どのくらい時間がたつたでしょうか。気が付くと、外で誰かが呼んでいます。

お姉さんです。

「ここよ。花の中よ」

ブンブが、大きな声でお姉さんを呼ぶと、花の隙間から、まぶしい光が差し込んできました。

朝日です。

すると、花びらがゆつ

くり開きました。

「まあ。ブンブ。こんなところにいたの。心配したわよ」

「おはよう」「おはよう」と、集まつてきました。

「ごめんなさい」

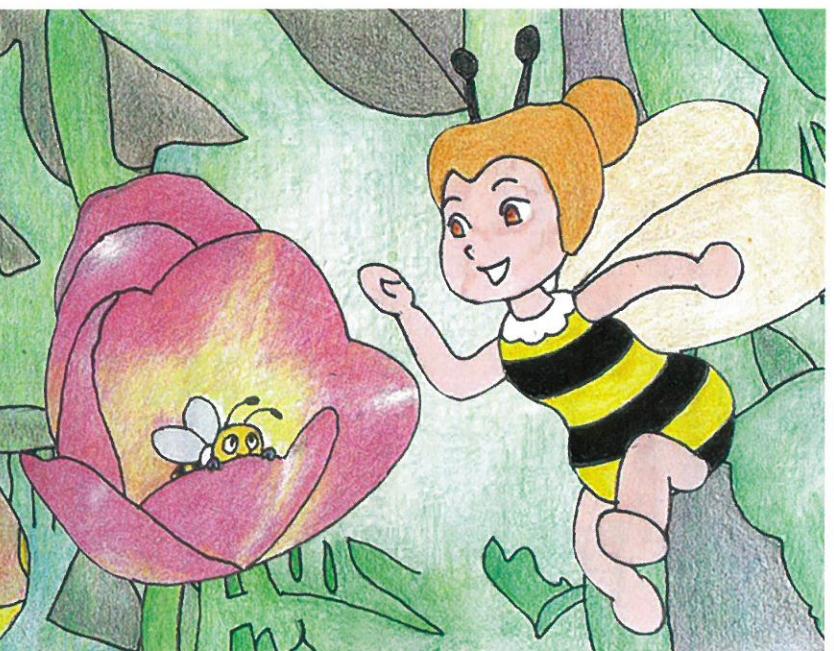
ブンブがあやまるど、お姉さんたちが、くすぐり笑いだしました。

「なあに。その顔。顔中、花粉だらけよ」

「早く巣に帰つて顔を洗いなさい」

ブンブは、お姉さんたちと一緒に朝日の中を高尾山の方に飛んでいきました。

(挿し絵・小出 茂)



行 程	
2:00	高尾山麓不動院 集合・着替え、荷物置き
2:20	出立(六号路)
3:00	琵琶滝(開会挨拶・法楽)
4:25	山頂
5:30	朝勤行(大本堂)
6:30	休憩
7:40	朝食(大本坊)
9:00	法話
10:00	諸堂参拝
11:45	昼食(大本坊)
12:45	柴燈大護摩供 於・有喜苑仏舎利塔前
14:20	不動院
15:00	解散

※琵琶滝には入滝しません。
※当日の天候や状況によって行程変更や中止となる場合がございます。

※練行は夜明け前の暗い六号路となります。
されていない登山道である為、自信のある方のみ
御参加ください。

※琵琶滝には入滝しません。

適宜休憩は設けますが、暗い山道を一定のペースで
二時間程度歩く自信のある方のみご参加下さい。
また、集合時間は厳守となります。遅刻の場合には
対応は致しかねますので、その旨ご了承下さい。

ケーブルカーは利用せず山麓から練行を行います。

夜明け前の厳かで靈氣に満ちた高尾山で回峰行を行
い、山頂にて御来光を迎え、藥王院で朝勤行や
法話、また有喜苑での柴燈大護摩供に参加してみ
ませんか。

※申込いただきまし詳細を記した要綱を

下記に記載します。ホームページでご確認
下さい。

※当日の天候や状況によって行程変更や中止とな
る場合がございます。

第一百二十一回 高尾山信徒峰中修行会 六月三日(土)

今回は【信徒峰中修行会】を、六月三日の未明
からその日の夕方にかけての、日帰り行程で開催
致します。

夜明け前の厳かで靈氣に満ちた高尾山で回峰行を行
い、山頂にて御来光を迎え、藥王院で朝勤行や
法話、また有喜苑での柴燈大護摩供に参加してみ
ませんか。

ケーブルカーは利用せず山麓から練行を行います。

適宜休憩は設けますが、暗い山道を一定のペースで
二時間程度歩く自信のある方のみご参加下さい。

また、集合時間は厳守となります。遅刻の場合には
対応は致しかねますので、その旨ご了承下さい。

※練行は夜明け前の暗い六号路となります。

※申込いただきまし詳細を記した要綱を

下記に記載します。ホームページでご確認
下さい。

※当日の天候や状況によって行程変更や中止とな
る場合がございます。

宛 先

〒一九三一八六八六

八王子市高尾町二二七七

高尾山藥王院

信徒峰中修行会係宛

電 話

○四一六六一一一五

募 集 期 間

五月十六日(

五月二十六日(必着)

*二十歳以上

定員となり次第締め切り
ます。ホームページでご確認
下さい。

三十名(男女不問)

定員となり次第締め切り
ます。ホームページでご確認
下さい。

六月三日(土)二時

(二日二十六時)

高尾山麓不動院

運動着

運動靴(登山靴可)

雨具(カツバ、ポンチョ)、
タオル、リュックサック、
ヘッドライト、筆記用具

*お持ちの方は、念珠、
錫杖をご持参下さい。

お申し込みについて

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●下記のQRコードからお申込み下さい。



お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

初夏滑雪

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

黄沙滑雪難的

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

陽光融雪防滑

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

陽光雲中冰變

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

犠牲冰雪翔滑

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

初夏滑雪

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

黃沙滑雪難的

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

陽光融雪防滑

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

陽光雲中冰變

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

犠牲冰雪翔滑

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

初夏滑雪

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

黃沙滑雪難的

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

陽光融雪防滑

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

陽光雲中冰變

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

犠牲冰雪翔滑

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

初夏滑雪

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~十六時迄)に信徒峰中修行会係までご
連絡下さい。

黃沙滑雪難的

申込方法は左記いずれかの方法とし、お電話での
申込は承りかねます。

1ハガキに必要事項(郵便番号、
住所・氏名とふりがな・性別、
生年月日、当日連絡のつく携
帯電話番号・緊急連絡先(続
柄)・アレルギー)を明記して

お送り下さい。

●お車でお越しの際には山麓祈禱殿駐車場をご利
用頂けます。その他、ご相談のある方は時間内
(九時~

毎日の
お護摩奉修時間
(4月15日~10月31日まで)

午前5時30分
〃 9時30分
〃 11時00分

午後0時30分
〃 2時00分
〃 3時30分

ご講中・団体等御相談
下さい。



登山だより

六月行事日程

一
日
~
七
日

聖天秘供(聖天堂)

四
日
、
十
六
日
、
二
十八
日

弁天様御縁日

八
日
仏舍利詣り(仏舍利塔)

十三
日
~
二
十七
日

御詠歌勉強会

十九
日
納
札
供
養
柴
燈
大
護
摩
供

(十時山麓不動院)

二十四
日

月例写経会

二十五
日

高尾山とんとんむかし
「語り部の会」

(十二時半山麓不動院)

御志納金
一
口
三
千
円
以
上

二
十八
日
奥の院開扉供養
(十時奥之院)

二
十一
日
飯繩様御縁日
神徳報謝百味飲食供
(九時大本堂)

☆
神
徳
報
謝
百
味
飲
食
供

高尾山御本尊飯繩大權

現様の日々の御加護に感謝
し、沢山の御供物を捧げて

御本尊様威光倍増の為、御
供養申し上げる法要です。

皆様の御志納を受け付
けておりますので、ご希望

の方は大本堂までお申し
出下さい。

尚、法要終了後に百味の
お札を授与致します。

毎月二十一日午前九時勤修
御志納金
一
口
三
千
円
以
上



両日とも法要終了後から十六時まで
大師堂にて弘法大師生誕千二百五十年
を記念して特別御手元を授与致します。

本年は真言宗を開かれた弘法大師御誕生一千二百五十年に当たり、記念すべき年となります。当山ではこの勝縁にあたり、お大師様をお祀りする大師堂を二日間特別開帳し、その御遺徳を偲び慶賛法要を執り行います。御信徒の皆様方におかげましては、是非ご参列下さいますよう、お勧め申し上げます。

日 程 五月二十一日(日)

九時御縁日御護摩終了後

九時四十五分頃

六月十五日(木)

十一時御護摩終了後

十一時三十分頃

場 所 大師堂

※法要中は大師堂前にて御参列頂きますが、終了後は十六時まで内陣を御参拝頂けます。

発行所	町田市	高尾山報助成金志納者
東京都八王子市高尾町2177	串田市	御芳名(順不同・敬称略)
大本山	橋本市	八王子市
高尾山薬王院	相模原市	有峰屋豆腐店
郵便番号 193-8686	熊谷市	高幸
電話(042)-661-1115(代)	加須市	坂本
FAX(042)-664-1199	小金井市	遠藤
発行人 犬山秀康	川崎市	坂本
編集人 菅井倫浩	川越市	藤田
印刷 ヒラツカ印刷社	八王子市	惠子
毎月1回1日発行	上野市	妙子
1部50円	大島	靖江
	水村	照明
	荻野	寺
	喜久江	
	千恵子	
	林雄	
	一同	

下記のQRコード
から高尾山薬王院
のホームページに
アクセスできます
<https://www.takaosan.or.jp>



発行所

東京都八王子市高尾町2177

大本山

高尾山薬王院

郵便番号 193-8686

電話(042)-661-1115(代)

FAX(042)-664-1199

発行人 犬山秀康

編集人 菅井倫浩

印刷 ヒラツカ印刷社

毎月1回1日発行

1部50円